

C型慢性肝炎のペグインターフェロン・リバビリン療法における健康補助食品「アスタキサンチン」の併用効果に関する試験研究

現在一般に行われているC型慢性肝炎の標準的な治療は、ペグインターフェロン（ペグイントロン[®]）という注射薬とリバビリン（レベトール[®]）という内服薬を併用する治療法です。この治療法が使われるようになって、C型肝炎ウイルスを排除する治療効果はかなり改善してきました。しかし、ウイルスの遺伝子型や体内に存在するウイルスの量によっては、治療効果がまだ不十分です。とくにウイルスの遺伝子型が Ib タイプでウイルスの量が多い場合には 50%弱の方にしか治療効果が認められません。また、メタボリック・シンドロームや脂肪肝をもっているC型肝炎患者さんでは、この治療法の効果が不十分であることが分かっています。肝臓の細胞のなかに蓄えられた脂肪がウイルス増殖の場になっており、またC型肝炎ウイルス自体が脂肪肝を引き起こすということも分かっています。

抗酸化作用をもつ健康補助食品として一般に利用されている「アスタキサンチン」には動物実験で脂肪肝を予防する効果が示されており、ヒトでも同様の効果が期待されています。そこで、標準的なペグインターフェロン・リバビリン療法にアスタキサンチン摂取を併用すると、脂肪肝の発症を抑え、ひいてはC型肝炎ウイルスの排除効果がさらに改善する可能性が期待されます。

この研究は、アスタキサンチンの併用によりC型肝炎ウイルスの排除効果が改善するかどうかを明らかにすることを目的とするものです。これまでに報告されている標準的なペグインターフェロン・リバビリン療法の治療効果と比較して、この併用療法がさらに優れているかどうかを検討します。